

□ Eiji TAKAHASHI: **Electron Microscopical Studies of the Synuraceae (Chrysophyceae) in Japan.** Taxonomy and Ecology. 194 pp. ( 68 pls.) 東海大学出版会 (1978) 定価 7,000 円

緑藻, 褐藻, 紅藻については採集したり調べたりした経験をもつ者はほとんどであろうが, 黄金色藻類 (Chrysophyceae: 黄色鞭毛藻類, ヒカリモ類ともいう) はと聞くと, 一体それはどんな藻類? とまでは言わないとしても, 見たことも採集したこともない藻類研究者や同好者がまずおられるにちがいない。肉眼で見えるものは大発生するヒカリモのようなもので, ほとんどが単細胞性が群体性で, しかも鞭毛をもって泳ぎ回るので, 顕微鏡下ではなはだとらえにくい。珪藻や接合藻のようにはと目を見はらせる形の面白さが無い。それに加えて折角の固定, 保存が役立たないで, くずれたりこわれたりしてしまうのが多い等々, 多くの人にながしろにされてきたとしてもいたしかたのないような性質をこの藻類の仲間には備えている。最近, 電子顕微鏡技術の進歩や生理生化学的知見の蓄積に伴い, 植物の系統類縁関係における黄金色藻類のもつ重要性の認識がますます高まってきた。しかし残念乍らこの藻群の分類や分布について本格的に取り組んだわが国の研究者はほとんどなかった。最近あげられた黄金色藻類についての華々しい研究成果もそのほとんどすべては日本以外の国で生みだされた。

今回出版された高橋永治博士の「日本産シヌラ科 (黄金色藻綱) の電子顕微鏡による研究, その分類と分布」は著者の約20年の永きに亘る研究成果の集成であり, 上述の経緯を考えると, この刊行物は日本の藻学の歴史において記念すべきものと言える。

著者は黄金色藻類の材料を得るために, 日本各地の96に及ぶ池や湖から水を 0.5 (または 1.0) l づつ2つの瓶に汲み, 1つはフォルマリンまたはルゴール液で固定, 保存し, 他の1つはそのままを遠心分離して全量を 1~2 ml に濃縮して検鏡に供した。

本書の内容は, I 序論, II 材料と方法, III 結果と考察, IV 要約, V 謝辞, VI 文献・索引などの6章から成

る。主体となる III 章は (1) 藻の外部形態 (2) 種の記載 (3) 地理的分布 (4) 季節的消長を含み, 全体の約9割の頁数を占める。(1) では分類の識別形質にとりあげられる鞭毛, 被殻, 鱗片等の形態について顕頭及び電顕レベルからの解説, (2) では120頁に亘る種の記載がある。ここで扱われる属の数は6つ (*Mallomonas*, *Mallomonopsis*, *Synura*, *Chrysosphaerella*, *Spiniferomonas*, *Paraphysomonas*) で, 種類数は変種と型を含めてそれぞれ, 5, 26, 11, 2, 7, 4で, 合計55に及ぶ。このうちの1属 *Spiniferomonas* と13種 (*Mallomonas* 4種, *Spiniferomonas* 7種, *Paraphysomonas* 2種) は著者により設立命名された分類群である。それぞれの属には種の検索表が添えられ, 種の記載は顕頭及び電顕レベルでとらえた特徴と分布上の特徴等を含む。各分類群には鱗片を中心とした電顕写真が添えられ, また多くの種について全体像が図示され, 種の階級の識別を容易にさせる。この藻群は季節のちがいににより体形や大きさに変化を生ずるものが多いことから, いくつかの種については, 定期的に採集した資料に基づく形質の比較が表やグラフにより示される。(3) の項では, 著者が約20年に亘って日本各地の陸水域から採集した96地点における各分類群の出現を示す地図や表が折込まれ, さらに日本以外の地域の分布についても触れられる。(4) では, シヌラ科の藻類の生育の季節的消長が, 主として山形県鶴岡市の3つの池で毎月2回づつ1年間に亘って定期的に行われた観察の結果に基づいて記述される。出現個体数と水温や pH との関係などが中心となる。

以上, 高橋博士のシヌラ科の藻類の本の内容を簡単に紹介したが, 著者がさきに分担執筆して発行された「日本淡水藻図鑑」の「黄色鞭毛藻綱」の章と相俟って, 日本における今後の黄金色藻類の研究の発展に果す本書の役割は大きいと信ずる。この藻群は水界の生産者であると同時に指標生物としても注目されるべきものであり, 一般藻類の研究者だけでなく, 広く水界と生物の仕事に関係される方達にも役立つものと思われる。(筑波大学生物科学系 千原光雄)

◎インド洋海域海藻国際シンポジウム(International Symposium on Marine Algae of the Indian Ocean Region) の案内

1979年1月に上記シンポジウムがインド, Bhavnagar の中央塩・海化学研究所で開かれる予定です。インド洋の海藻についての基礎から応用までの各分野に興味のあるすべての人に開放されています。参加を希

望する方は直接下記宛へ申し込んで下さい。  
Dr. P. S. Rao, Secretary and Convener, International Symposium on Marine Algae of the Indian Ocean Region, Central Salt & Marine Chemicals Research Institute, BHAVNAGAR 364 002 (India).